

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！

NPO法人

JAPAN NOW

観光情報協会

Non-Profit Organization JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION

東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が発信する隔月刊情報紙

第75号 発行日2011年01月25日

Contents

講演会	1
新年のご挨拶	2
新年のご挨拶	3
アメリカこぼれ話	4
食にまつわるエピソード、ベルリンのたそがれ	5
城下町と観光、NEW SPOT	6
NPOからの提案、イタリア通信	7
お天気の話、編集後記	8



東京駅丸の内側の駅舎。2階建てから3階建てに復元する工事が進められている。写真は完成イメージ図。(JR東日本提供)

安定した真の国際観光交流に向けて

理事長 松尾道彦



平成23年の新年を迎えて、この1年が明るく希望の年になりますよう会員の皆様とともに期待したいものです。昨年、日本人お二方のノーベル化学賞受賞、小惑星イトカワの探査衛星「はやぶさ」の地球帰還という歴史的快挙、広州市でのアジア

大会における日本人選手の活躍など素晴らしい話題がありました。

その一方で、尖閣諸島での中国漁船の衝突事件、北朝鮮による韓国延坪島への砲撃事件、記録的な猛暑日の更新や豪雨による自然災害の多発など暗い事件も発生しました。世界の国際観光交流は、全体として増加の傾向にあるが、我が国では一時は、日本人の海外旅行客が1800万人、外国人の訪日旅行客が800万人と好調の時期を経て、このところそれぞれ1500万人、700万人と低迷している。そのときの経済情勢、新型インフルエンザなどの影響により左右される。日本の地理的条件により、特にアジア地域との観光交流は約90%を占めている。中でも韓国、中国、台湾との関係が突出している。

今回の尖閣問題により、これまで営々として構築されてきた日中友好関係、とりわけ経済交流が拡大され「戦略的互惠関係」にまで発展してきた間柄が、相互不信によってもろくも崩れかけようとしている。やはり、隣国同士の心の通い合った互助の精神による相互信頼の礎に立った真の友好関係を回復

することが最も大切なことである。昨年は、北海道の新千歳空港における国際専用ターミナルの供用、羽田空港では4本目の滑走路と国際線ターミナルの供用により、オープンスカイポリシーの下で国際線の就航も始まり、さらに成田空港でも地域の理解を得て、処理能力の大幅な拡大が期待されている。社会インフラが整備され、施設面の充実の上に立って安定的な国際観光交流を持続発展して行くに当たっては、なんと言っても各国の平和的基盤が確立されているうに「お互さま」の信頼の精神に裏打ちされた良好な国民感情が存続することが、必要なのではないでしょうか。

東北新幹線の新青森開業で交流拡大

3月に仙台で観光・経済講演会を開催

JAPAN NOW観光情報協会は、郷土発展振興会との共催により3月9日、仙台市で東北新幹線の新青森駅開業に伴う東北と首都圏の観光・経済交流の発展策などで講演会を開催する。東北新幹線の新青森駅開業については、JR東海の須田相談役が講演し、JN協会の白澤事務局長が「リニア中央新幹線の実用化」について講演する。宮城県知事や仙台市長に来賓として出席するよう、お願いする。東北新幹線の八戸・新青森駅間は昨年12月4日に開業し、東京と新青森駅間が3時間20分で直結して東北と首都圏との交流拡大が期待される。約150人が参加予定。

新年明けましておめでとうございます。
本年もJN紙をよろしくお願ひします。

「広域観光」をめざして

J R東海相談役 須田 寛



交流の世紀といわれる21世紀も10年を過ぎ、早くも二旬目に入りました。不況やインフルエンザの影響を受けた平成21年に比べ、昨22年は観光実績も復調の兆しを見せてきましたが、国内観光は依然低迷状態から脱しきれないでいます。また増加してきた外国人観光客が特定地域（コース）の観光に集中する傾向にあり、国内全体の幅広い観光に及んでおりません。交通手段の発達もあり観光客の行動距離がひろがりつつあり、従来の府県市町などの行政区画単位の観光には限界が出てきています。したがって観光地が互いに連携して地域の特色を活かしながら幅広く観光客を迎える「広域観光」の展開が求められています。

このほど中部から九州までの西日本各地の観光団体が連携して「西日本広域観光モデルコース」を策定、公表しました。また県域を越えた観光キャンペーンも行われるなど、「広域観光」への各地での取り組みも始まりました。「広域観光」のためには観光地同士がネットワークを結んで情報を交換、共有発信することが必要です。JAPAN NOWでは各地のフォーラムなどを開催し、「広域観光」の啓蒙と情報提供を行い、各地の広域連携のお手伝いをするべく努力していきたいと思っております。今年もどうかよろしくお願いたします。

尖閣諸島沖事件

顧問 丹羽 晟

20年前、私は海上保安庁長官であった。当時尖閣諸島沖にきた台湾漁船への海上保安庁巡視船の対応で、一度一触即発の危機的状況になりかかったことがあったが、幸い大事には至らなかった。

私はもう過去の人であるから、現在の海上保安庁についての情報は何も持ち合わせていないが、現在の鈴木長官はよく知っている人なので、テレビで国会中継を見ていて、心労が全身に現われている長官の様子に心を痛めている。

外交問題が絡んでいるので、今回の日本政府の対応には、まだまだ表面化していない事実も多々あると思われるから、その当否を軽々に判断することは差し控えたいが、ただ確実に言えることは、今回の決着では海上保安庁の現場職員が一番困ることになったと思う。例えば、今回と同様の事件が再び発生したら現場の海上保安官はどう対応すればよいのであろうか。相手の船長を逮捕しても、那覇地検が「今後の日中関係を考慮して」再び釈放するであろうから、それなら最初から逮捕しない方が問題が起きない。しかし、わが日本国は再び主権を無視される屈辱を甘受することになる。

それでは、どうしたら良いのか。当然海上保安庁始め政府関係者は今後の対処方針をとつくに検討済

検討済みであると思っているが、私自身が現在の長官であったなら、事件発生時にどのように対処したのか、また今後どのように対処することとするのか、毎日考える今日この頃である。

世界へ向けて、ブランド発信!

中国支部長 大田哲哉（広島電鉄会長）

中国支部における2010年は、各団体が連携し世界に通用する「地域ブランド」の構築を目指した年であったと思います。中国運輸局では、スローツーリズム開発の視点から「中国地方とおきの景色と食」を季節別に公募し「中国地方ならではの」観光資源を集約して情報発信する事業を行いました。広島県では、瀬戸内海全体を見据えた視点から瀬戸内海のブランド化や認知度の向上を図るために「瀬戸内、海の道」構想を策定し、歴史・食・自然・産業などをテーマにした実証事業を、かつてない規模で実施しており、2011年度から本格的に事業化する予定です。

また、NHK連続テレビ小説「てっぺん」の舞台である尾道市と「造船の町」今治市を結ぶ「瀬戸内しまなみ街道地域」が広域観光圏に指定され、サイクリングを核とした観光振興に取り組んでおり、日本経済新聞認定の「おすすめサイクリングコース」全国第一位の地域として今後発展が期待されます。2011年3月に九州新幹線が全線開通することを受け広島県観光連盟では、広島県が単なる通過地点とならないように、新幹線駅を起点として広域観光ルートを開発し、積極的な誘致に取り組んでおります。7月に尾道市、福山市、三原市で「海フェスタ」が開催され、瀬戸内海の魅力を存分に楽しんでいただけたと思います。本年は今まで蓄積してきた、さまざまな取り組みが一気に開花し、実り多く年になることを確信しています。

北陸新幹線は1780億円と増額

国土交通省の予算 観光は101億円

国土交通省は昨年12月、平成23年度予算を発表したが、このうち26年度開業予定の長野・金沢間の北陸新幹線予算は1780億円となり大幅増額となった。このほか整備新幹線の予算は、北海道の新青森・新函館間が880億円、東北の八戸・新青森間が40億円、九州の博多・新八代間が60億円、九州長崎ルート武雄温泉・諫早間が100億円となっている。北陸の金沢・敦賀間など未着工区間の新規着工が決まった場合に使う保留分は90億円。航空局関係では羽田、成田、関西、中部空港の整備事業を重点に対応する。

観光庁予算は前年度より減少して101億円となり、このうち訪日外国人の旅行者を年間1500万人にするための促進事業として60億円、観光地の再生、活性化支援事業に2億7000万円、広域観光促進事業に2億円が計上された。

四国ツーリズム創造機構が本格活動

四国旅客鉄道株式会社 相談役 梅原利之

明けましておめでとうございます。

昨年は四国が大いに注目された1年でした。NHK大河ドラマ「龍馬伝」が大人気で高知は人であふれていましたし、一昨年からは始まり今年で完結するNHKスペシャル大河ドラマ「坂の上の雲」も評判が良く、松山の知名度も高まりました。

さらに、昨年7月19日から10月31日まで瀬戸内海の7つの島と高松港を舞台に開催された、第1回「瀬戸内国際芸術祭」には世界中から目標の3倍を超える約93万人が訪れ、瀬戸内海の素晴らしさを大いに発信することができました。まさに四国観光元年とも言える年でした。

この好機を今後どのように活かしていくかが、私達に課せられた今年の最大の課題です。幸いにも難産の末発足した、広域観光推進組織「四国ツーリズム創造機構」も3年目を迎え、官民が一体となったオール四国での取り組みがいよいよ本格化します。

さらにこれからの大きなマーケットである中国を含めた東アジアに向けて、映像による情報発信についても鋭意検討を進めているところです。

観光は我国の成長戦略の大きな柱の1つであり、また地域活性化の切り札でもあります。今年1年大いに頑張っって参りたいと考えています。

今年も美酒美談を期待して

JN協会副理事長 横山善太

協会の事業ではあまりお役に立っていませんが、懇談会では常連の一人であります。この懇談会は、そもそもは盃を交わしながら情報交流する場というのが趣旨だと思うのですが、日本酒を好んで飲むこともあり、ひたすら飲んで論談風発ならぬ冗談連発の場、つまり単なる飲み会化させた犯人の一人として恐縮していますが、今年も続けたいと思います。

それでは、お正月の酒の肴に酒のお話を一席。土佐の銘酒「司牡丹」であります。『時は江戸時代。酒豪の領主が静岡掛川より土佐佐川に着任、地酒を誉めて早速、静岡から酒造り屋を招き銘酒を造らせた。米は播州山田錦、水は地元仁淀川の極軟水、水仕込の匠を広島から招聘し、今日まで続いているそうです。この酒が「司牡丹」と命名されたのは大正時代、地元選出の大臣が「牡丹は百花の王（由来は中国）、さらに牡丹の中の司たるべし」と、この名を選んだという。造り酒屋は“少し名前が長すぎるのでは”と申し上げたら答えて曰く“石川五右衛門を見なさい。長くても有名になれば覚えてもらえる”との話が残っているという。この話を気に入って会う人ごとに名の由来を話している女が地元にいる由』（以上「宮尾登美子」の作品より脚色したもの）。

この話はオチがあるのか、中締めなのか、何とも意味不明のところは酔狂で良いでしょう。

（霞が関情報は休載します。）

長野は北陸新幹線開業で観光の核に

知事らが来賓で出席 須田氏が講演で指摘

JAPAN NOW観光情報協会は昨年12月7日、郷土発展振興会との共催により長野市で北陸新幹線の全線開業に伴う長野県の発展策について講演会を開き、JR東海の須田相談役が「長野は全線開業で東京や北陸との時間距離が短縮され、東日本観光（広域観光）の核となるだろう」と指摘した。JN協会の白澤事務局長は「リニア中央新幹線の実用化」で講演。長野県知事らが来賓として出席。

長野は新しい街づくりで観光客の誘致を

須田JR東海相談役が新幹線開業で提案

須田氏は「北陸新幹線と長野観光」というテーマで講演し、「例えば政令指定都市として賑わう岡山市は、山陽新幹線が岡山まで開業した際、新しい街づくりを行い、新幹線が博多まで開業した後も企業の支店が閉店するなどの影響はなかった。長野市も北陸新幹線が長野から金沢まで全線開業しても、この岡山方式に習って街づくりを進めれば影響は少なく、むしろ東日本観光の核となり、発展するだろう」と指摘した。須田氏は、その理由として「長野は東京とは1時間30分、金沢とは1時間で結ばれ、便利になる。首都圏からの観光客と北陸3県の人口約300万人の長野県への日帰り観光が可能となり、経済発展につながるからだ」と述べた。

また、「長野市が北陸新幹線の通過駅とならない方策として、飯山、上越、糸魚川、富山、金沢市との新しいネットワークをつくり長野市以北の発展策と、長野市以南の観光地の魅力について情報発信することも重要である」と語った。

時速150キロで10センチ浮上走行

白澤事務局長がリニア中央新幹線で講演

「リニアカーの基本的なことについて、お話したい。JR東海が実用化しようとしている超電導型リニア（正式名称は超電導磁気浮上式鉄道）は、強い磁石を備えたリニアのことで、10センチ浮上して走る。車両の連結部分の台車にある超電導コイルが液体ヘリウムで冷却され、マイナス269度に達すると超電導状態になり、ガイドウェイの左右両壁に取り付けた走行・浮上・推進コイルとの間で吸引・反発することで走る仕組み。始めはゴムタイヤで走り、時速150キロに達したところで、タイヤを車体に格納し、10センチの浮上走行となる。JR東海は東京・名古屋間でリニア中央新幹線が開業した場合の営業運転速度を500キロとしている」と指摘した。

「これに対してドイツが開発した常電導リニア・トランスラピッドは、超電導リニアに比べ磁石が弱く、1センチ浮上して走るもので、最高営業速度は400キロ。上海で実用化されている」と述べた。

アメリカ・こぼれ話 ⑪

「インディアンに殺された？リンカーン」

JN協会理事 北村 嵩

大半の人は“エイブラハム・リンカーンはインディアンに殺された？”と聞くと、いや確か“白人の俳優に劇場で暗殺されたはずだが”と思うことであろう。確かに1860年大統領選挙に当選して第16代大統領になり、国を二分した南北戦争に対応し、「奴隷解放宣言」を發布したエイブラハム・リンカーン大統領は1865年に暗殺された。大統領再選を果たし、南北戦争が終結した直後でいよいよ戦後の改革に着手しようとした矢先に、劇場で出演中の俳優の銃弾に倒れたのである。インディアンに殺害されたエイブラハム・リンカーンは大統領と同名の彼の祖父で、大統領が生まれる前、1786年の出来事である。リンカーンの父方の祖先は1673年にイギリスからマサチューセッツに移住して来た。以来その子孫は常に時のフロンティアに移動を続けた開拓者で、祖父エイブラハムはヴァージニアからケンタッキーに移り、森を農地に開墾中にインディアンに襲われて死亡した。植民地時代の英雄ダニエル・ブーンがアパラチア山脈の先住民や動物の踏み分け道「荒野の道＝ウイルダネス・ロード」を越えてケンタッキーに定住地を建設したのは1775年のことであり、初期の入植者の一人がリンカーンの祖父であった。無断で入り込む白人たちに土地を奪われると恐れられた原住民に殺されたと言われる。1809年貧しく無学な両親の元で姉に続く2番目の子供として生まれた男子は殺された祖父にちなんでエイブラハムと名

づけられた。リンカーンはほとんど学校教育を受けていないが、独学で法律を学びイリノイ州で法律事務所を開き、徐々に名声を博し、イリノイ州議会議員から同州選出の連邦下院議員に当選した。しかし当時メキシコ領であったテキサスを強引にアメリカに併合し、国境問題を口実にメキシコと戦争を始め勝利し、メキシコからカリフォルニアやニューメキシコなど広大な領土を獲得したポーク大統領に対して、下院議員であるリンカーンが“アメリカに対して何もしていないメキシコに対して戦争をしたのは憲法違反である”と批判したため、戦勝と領土拡大に浮かれていた民衆の支持を失い、ワシントンでの議員生活を終了した。イリノイ州に戻って鉄道関係訴訟などで活動的な弁護士として注目され、当時、盛り上がってきた奴隷制度の存否に関する議論が、再び彼を政治の世界に引き戻し、新しい政党共和党から大統領候補に押され、相手側の民主党の分裂にも助けられて、危機を迎えた困難な時期の大統領に選ばれ、国の分裂を回避した。歴代のアメリカで最も尊敬される大統領として多くの名スピーチを後世に残した。

咸臨丸の眠るサラキ岬の交流拠点など

国土交通省が「手づくり郷土賞」を選定

国土交通省は1月12日、全国各地から応募のあった平成22年度の「手づくり郷土賞」を選定して発表した。手づくり郷土賞は社会資本と関わりを持つ地域の優れた取り組みを選定して表彰するもので、個性的で魅力ある地域づくりに欠かせないとして昭和61年度に創設された。

一般部門が22選、大賞部門が3選となっている。このうち一般部門では、北海道・木古内町の「咸臨丸の眠るサラキ岬の交流観光拠点づくり」が選ばれた。幕末の日本近代化に一役買った歴史遺産「咸臨丸」の終焉の地・サラキ岬。「咸臨丸とサラキ岬に夢みる会」は平成16年に地域住民を中心に発足し、咸臨丸の歴史や自然豊かなサラキ岬を核とした広域的な観光交流の拠点づくりとして住民が努力したという。このほか、仙台市の「将監沼の自然とふれあいを育む。地域挙げての将監沼の風景を取り戻す」や東京都町田市の「大戸源流で森づくり」などが選定された。

日本唯一のホテル客室常備文化情報誌

JAPAN NOW

1985年の創刊以来、内外の多くのお客様にご愛読いただいていた「JAPAN NOW」誌は、日英全文対訳で学校教材としてもますます高く評価されています。



4月に完成した2010-2011年度版は、日本全国のホテル約100館、55000の客室に常備されています。

日本文化の再発見を通じて新たな観光資源を紹介し、現代日本を代表する執筆者やカメラマンたちによって日本の歴史といまを生き生きと伝えることが、「JAPAN NOW」誌の編集方針です。

2010-2011年度版では、環境をテーマとした特集において「水」を中心に育まれてきた日本の暮らしのなかの伝統的な環境保全技術や自然とのかかわりを取り上げ、その将来への応用の可能性を探りました。また、巻頭インタビュー・ページでは、インテリアデザイナーの内田繁氏と女優の緒川たまき氏にご登場いただいています。

1部2000円（送料別）で購入できます。

お問い合わせは（株）ジャパン・ナウへ。

電話 03-5155-8940-1751/FAX 03-5155-8941

[会員募集]

都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会員を募集しています。

個人会員(1口5千円)、団体会員(1口5万円)

東京都渋谷区代々木1-58-13小田急代々木ビル3階

JAPAN NOW観光情報協会(電話03-5304-9500)

会員の投稿を歓迎します 情報紙の充実を目指して！！

観光情報紙2011年3月号への個人、団体会員の投稿を歓迎します(400~500文字程度)。皆様のご意見を、どしどしお寄せ下さい。詳細は事務局まで。

発行は2011年3月25日。締め切りは2011年3月10日。

食にまつわるエピソード

風邪予防のホットワイン

筑波学院大学教授 大島慎子

冬のヨーロッパでは、クリスマスマーケットやスキー場でホットワインが売られる。ホットワインは名前の通りワインを温めたものであるが、実は和製英語であり、英語ではmulled wine という。フランス語ではVin chaud (ヴァン ショー) スウェーデン語でGlogg (クロググ) そしてドイツ語ではGluehwein (グリュウヴァイン) である。赤ワインに果物やスパイスを入れてつくりアツアツで飲むものであり、レシピは大体同じで、好みによって砂糖や蜂蜜を加える。アメリカでもホットワインはハロウィンやクリスマスに作る家庭が多い。

ホットワインはどの国で最初に考案されたのかは定かではない。ワインにスパイスを入れる習慣は紀元前からあるといわれる。これは品質の悪いワインに甘みや酸味を加えたもので、目的が違うようだ。家庭でつくるレシピとしては、テーブルワイン程度の安い赤ワインに、シナモン、クローヴ、オレンジスライスかオレンジピール、レモンスライス、リンゴかけ、コリアンダー、好みでグラニュー糖と月桂樹の葉をいれて80度くらいに温める。沸騰するとアルコールが飛んでしまうので、これに気をつけ、最後に好みでラム酒を入れる。ただ香辛料が散らばると、あとで濾すのが大変なので、私自身はグリュミックスという香辛料のティーバッグを購入することになっている。

寒さ対応、風邪予防といわれるホットワインで、Feuerzangenbowle (フォイヤーツアングエンボウ

レ) というものがある。この直訳は「火ばさみのボウル」であり、名前の由来はパンチボウルの端にわたした火ばさみ(ドンク)であるFeuerzangen に円錐型の砂糖の塊をのせ、ラム酒をかけて火をもやしたことが名の由来である。この時、ラム酒はアルコール度が50%以下であると燃えないし、60%以上であると火をつけた時に砂糖がカラメル状になってしまうので、54%くらいのもを選ぶのがコツである。ラム酒を染み込ませた砂糖に火をつけると、美しい炎が燃え、砂糖がとけてポツリポツリとワインに滴り落ちるのである。



(フォイヤーツアングエンボウレ)

家庭で作る場合は専用のポットが売られているが、知人のドイツ人家庭でもこのセットをもっている人達は少ない。

最近ではボトルで売られる輸入ホットワインがあるが、スーパーのワイン売り場に説明書もなく置かれていることがあり、普通のワインだと思って飲む消費者は、「スパイシーなワインだ」と誤解するのではないかと心配である。

ベルリンのたそがれ

1812年の雪

小田急電鉄(株)顧問 利光國夫
(元小田急グループCEO)

ヨーロッパの代表的観光名所と言え、まずパリと言って良いであろう。パリの中でも定番はルーブル美術館、エッフェル塔、ノートルダム寺院、シャンゼリゼ、凱旋門、ベルサイユ宮殿などであろう。私はパリには3回行っているが、その度に決まって行く所がある。一般の観光客はあまり行かないと思うその場所は、「廃兵院」である。ここにはナポレオン納骨堂があるのだ。

前回書いたように私はヒトラーに多大な関心を抱いているが、1940年6月パリがナチスドイツに占領された時、3時間ほどヒトラーはパリを視察している。その時彼が此処を訪れた写真が私の持っている「ヒトラー写真集」の中にあるのだ。巨大なナポレオンの棺の周りには、彼が戦った幾多の戦場の名が刻まれているのだが、その中にモスクワがある。脱帽して佇立するヒトラーの視線の先には、この地名が在ったに違いない。

1812年、ロシア遠征をしたナポレオン軍がモスク

ワ占領を果たしながら、ロシア軍の焦土作戦と襲ってくる氷雪によって悲惨な敗退に追い込まれた史実を念頭にしながら、ヒトラーは秘かに計画中のロシア(ソ連)侵攻に思いを馳せ「余は汝の轍は踏まぬ」と胸中に誓ったであろう。

それから丁度1年後、奇しくもナポレオンと同じ6月22日、ナチスドイツ軍はロシアに総攻撃を開始した。世に言う「バルバロッサ作戦」である。この作戦は当初5月に実施される予定だったが、その直前にユーゴスラビアで反ナチスクーデターが勃発し、激怒したヒトラーはユーゴ攻撃を命令、このため作戦の実施が約1か月遅れたのである。

この1か月の遅れは世界の歴史を変えた。恐るべきロシアの冬が来る前に作戦を完了させる予定だったが、この年ロシアの冬は例年より早く到来、1812年ナポレオン軍を襲った氷雪は、130年の時空を超えてモスクワを目前にしたドイツ軍の上に襲いかかったのである。

「歴史は繰り返す」と言われるが、それは人間の浅はかさによるものであろう。世界中の観光資源には楽しみだけではなく人間というものについて深く考えさせられるものが多々あるのではなかろうか。

城下町と観光 ⑩

津和野城

坂崎出羽守が津和野城主となる

鯉が遊ぶ道路脇の小川

J N協会参与 長宗我部 友親



津和野城跡

小川が流れ、町の人々はその小川で元気に泳ぐ鯉に食事の残りを与えたりしている。

津和野藩を立藩したのは、備前国岡山の太守宇喜田秀家の一族であった坂崎出羽守直盛（さかざきでわのかみなおもり）である。坂崎出羽守は、関ヶ原の戦いで功績で、毛利輝元の領地であった津和野二万四千石を与えられた。そして、その後起こった大坂夏の陣の際には、燃え落ちようとしている大阪城から徳川家康の孫で、豊臣秀頼夫人であった千姫を命がけで助け出す。だが、その後出羽守には不幸が襲う。家康は千姫を救出したいばかりに、直盛に、無事救出したら、千姫を嫁に与える、との約束をしたといわれる。ところが、千姫は直盛を嫌って、伊勢国の桑名藩主であった本多忠政の子の忠刻

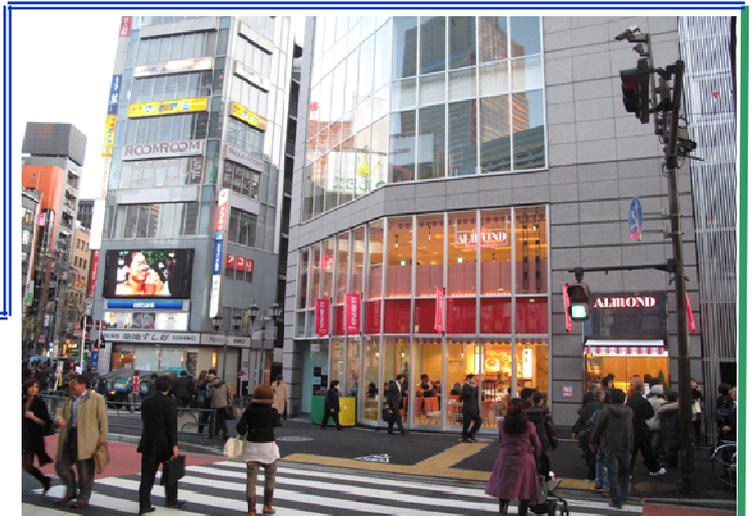
津和野の町の真ん中には津和野川が流れ、城址から見下ろす町全体にのどかな雰囲気が漂っている。城下町には家並みに沿って、



津和野大橋

（ただとき）に嫁ぐことになる。そこで、出羽守はこのことを恨み、千姫奪取を企てる。だが、この騒動は柳生宗矩（やぎゅうむねのり）の説得でおさまった。しかし、出羽守は自刃して果て、津和野藩は廃絶となる。坂崎氏の後には、因幡国鹿野から亀井政矩が四万三千石で、入る。

その後、津和野藩には天明三年（1783年）に、藩校養老館が創設され、儒学をはじめ医学、兵学も教えた。文化の伝統が保たれ、哲学者の西周（にしあまね）や文学者の森鷗外らを津和野の町は輩出した。



六本木交差点角に戻ったピンクカラーのアマンド(中央)

NEW SPOT

in japan 24 アマンド復活

明るいピンクのシンボルカラーで馴染みの喫茶店「洋菓子のアマンド」が東京・六本木交差点角に戻ってきた。ビル建て直しのため移転していた裏手の仮店舗から2年ぶりに昨暮12月1日、元の場所でリニューアルオープンした。さっそく格好の待ち合わせスポットとして老若男女の客を呼ぶ。

戦後すぐ1946年8月創業で、都会の焼け跡にいち早く洋菓子販売の光をともした。六本木店は東京オリンピックの64年に開店し高度成長期のシンボルの1つになり、年中無休、深夜営業でデートの場所として賑わった。街を闊歩する六本木族の若者がたむろし、クラブへ通う紳士がホステスさんを待ちわびる姿も目立った。支店は赤坂TBS前にもあり、出演を待つ芸能人たちをよく見かけた。

近ごろ店の前の歩道は怪しげなバーなどに誘う外

国人の客引きが立ち、一種異様な光景に人びとは足早に通る。地元の麻布警察署長と麻布ビル防犯協力会の連名で「警告WARNING」の看板に、客引き、立ちふさがり、つきまといなど通行人への行為を処罰する、と英文で書かれている。

喫茶は朝9時～翌朝5時の営業で、金土曜と祝日前は6時まで1時間延長し、日曜のみ朝10時から深夜3時までだ。1階は禁煙26席、2階が喫煙48席。コーヒー一杯577円。店内は夜を徹して輝く照明で、暗いイメージは全くない。いま街を二分する首都高の影になった交差点の角で、ピンクの光が核となって歩道を照らし、明るい街づくりに期待は大きくふくらむ。

(文・写真 林 莊祐)

NPOから提案します

市長の観光政策実践論

—危機管理と風評被害—

JN協会理事 加賀市長 寺前秀一

観光の本質は他との差であり、刺激とか興味とかに根ざす点ではマスコミやインターネットと同じであることは理解されています。従いましてマスコミやネットによって評価を高めた観光資源はマスコミやネットによって評価を下げることもあるわけです。秋葉忠利広島市長もマスコミによって評価を勝ち得た面があるわけですから、自らの意に沿わない報道がなされたからといって引退宣言につきマスコミを制限する方法はフェアではないでしょう。実像より高い評価をマスコミにより得ていたとしたらお釣りが来ていたかもしれないからです。

加賀市の観光政策も、加賀温泉郷、加賀ブランド等加賀という名称を活用してゆく作戦を考えています。それは加賀という旧国名が、マスコミ等で首都圏に周知されているということが前提にあります。貧乏所帯の加賀市としては、旧国名である加賀を使用することもある石川県や金沢市の観光宣伝活動に一部便乗させていただくという魂胆によるものです。しかしながらプラスの面だけではないことも覚悟しておかなければなりません。岩手・宮城内陸地

震では大崎市鳴子温泉が風評被害にあいました。鳴子温泉は全く地震の影響はなかったのですが、災害名に宮城という地名が入っていたものですから、予約のキャンセルが相次いだようです。従って加賀ブランドイコール加賀市ブランドということになれば加賀市にとっての風評被害はなくなるという覚悟で政策展開をすべきであると思っており、これからの市長の力量が試されると思っています。

鳥インフルエンザが再び話題になっており、風評被害も心配されます。危機管理上も重要でありますから、早速片野鴨池の鳥インフルエンザ対策を確認し周知しました。この欄でも以前紹介しました通り、溜池に集まった鴨類の捕獲が藩政時代の元禄期から制限されてきたため、片野鴨池と呼ばれる湿地帯が加賀市には存在し、現在ではラムサール条約の登録地となっています。坂網とよばれる特殊な狩猟法でのみ捕獲することが許されてきました。この天然の鴨を素材にした料理を加賀の高級ブラン化しようという試みを進めておりますが、鳥インフルエンザ報道如何では逆効果になりかねません。風評被害と危機管理対策が必要になります。マスコミ、ネットのお世話になる以上は十分に考慮しておかなければなりません。

イタリア通信 ~その18~

高野町とアッシジで交流行事を実施

世界遺産都市間の交流

2010年12月3日から10日まで、イタリアのアッシジで、日本の和歌山県・高野町を紹介する様々な交流行事が実施された。これは、2009年10月に調印された「高野町・アッシジ市 日伊世界遺産都市の文化・観光相互促進協定」を受けて実現されたもの。弘法大師空海と聖フランチャスコという類いまれな宗教者が、山上に開いた聖地高野山とアッシジ。ともにその高い精神性で世界遺産に登録されたという共通性のある2つの街間の相互交流を深めることが目的である。私は、交流事業に関する事前準備や行事開催中の通訳・コーディネートなどを委嘱され行事にかかわってきた。

アッシジ市庁舎の展示スペースでは写真家永坂嘉光氏の高野山写真展および和歌山県と高野町の観光紹介展が開催され、多くの市民や観光客が訪れ、地元紙では、「永坂氏の1200年以上の歴史を誇る仏教・真言密教の見地から高野山の自然を表現するもの」と高い評価を得た。またアッシジ市主催で同市市民を対象とした「ユネスコ世界遺産 高野山発見」セミナーが市庁舎で行われた他、同市内の高等学校2校を訪れて若い高校生との交流も実施された。さらに、アッシジ市内にある観光高等研究センターを訪れ、世界遺産都市・史跡の維持・管理・活性化に関して意見交換がなされた。アッシジのクラウディオ・リッチ市長は、「両市の間でアイデアや情報を交換する大変重要な機会である」と今回の交流を評価している。



アッシジでは2000年に「アッシジのサン・フランチェスコ聖堂と関連建造物群」が世界遺産に登録され、世界中から多くの巡礼者をはじめ、旅行者を集めている。2010年11月19日から21日の3日間、アッシジでは第1回世界遺産都市・国際観光見本市が開催されている。これはイタリアおよび世界から40を超える世界遺産都市が出席し、旅行オペレーターやジャーナリストとの出会いの場とするもので、世界遺産都市を集めての観光見本市は世界で初めての企画として注目をあびた。期間中は世界遺産に関するシンポジウムやセミナーも開催され、アッシジは世界遺産都市としての求心力および発信力を高めている。

なお、高野山を訪れる外国人旅行者、特にヨーロッパからの旅行者は近年増加を見せており、高野山の宿坊体験や精進料理が人気を集めている。高野町によると、平成22年のインバウンドの入込客の速報値は平成21年の38000名に対し、平成22年は42000名と約4000名の増加を記録しており、その大半がフランス、イタリア、スペイン等からの旅行者増によるとされている。現在、イタリアで訪日旅行を造成しているイタリアの大手・中堅ツアー・オペレーターは10社を超えており、

その大半が高野山訪問をいれたパッケージあるいはオプションプログラムを設けており、日本旅行ファンのイタリア人の中で高野山の知名度は上昇中である。

JAPANITALY.COM社 代表取締役 大島悦子 (Etsuko Oshima)

雪道運転に注意

仕事や観光で車を利用して雪国に出かける機会があると思います。雪国の道路は圧雪道路ばかりではなく、アイスバーンが現れたり、わだちがあったりとドライバーにとって緊張の連続です。

そこで、雪道の運転の注意事項をまとめました。雪道で注意することは「急」のつく運転をしないことです。

急発進は禁止です。アクセルを踏みすぎると、タイヤが空回りして発進しにくいものです。アクセルを軽く踏み、そーっと走り出しましょう。走り出してからゆっくりとアクセルを踏む



ようにします。このとき急な踏み込みは禁物です。また、急ハンドルを切ると車自体が回転して思わぬ方向に進みカーブを曲がれません。カーブ手前で十分に速度を落としゆっくり曲がって下さい。止まる際には急ブレーキは避けましょう。タイヤがロックされ雪面を滑るだけで、なかなか止まらないばかりか、車がスピンすることもあります。

筆者は雪国の出身ですが、日中と夜間、日なたと日陰、市街地と郊外、橋梁部、トンネルなどで道路状況が常に異なり、雪道の運転は今もって慣れません。たまに雪道を運転する場合には十分な注意が必要です。

安全に目的地に着き、安全に帰宅することを考えると、「急」のつく運転は絶対避けるべきです。

日本気象協会 金野 雅之

会員名簿

(敬称略) (個人会員名簿は公開していません)

- 名誉顧問 : 松山善三(映画監督)
 理事長 : 松尾道彦(日本海事センター会長、元日本鉄道建設公団総裁)
 顧問 : 丹羽晟(前理事長、日本空港ビルデング顧問)
 副理事長 : 白澤照雄(JN協会事務局長)、岡村進(元小田急トラベル社長)、横山善太(株JALUX特別顧問)、大島慎子(筑波学院大学教授)、小竹直隆(元JTB専務)、須田寛(東海旅客鉄道相談役)
 支部長 : 片山文彦(新宿)、魚住隆彰(北陸)、麓理沙(立教)、長尾亜夫(九州)、須田寛(中部)、岩田弘三(神戸)、坂本眞一(北海道)、梅原利之(四国)、丸森仲吾(東北)、大田哲哉(中国)

【団体会員】(2011年1月25日現在)

AGC硝子建材エンジニアリング(株)、(株)朝日ネット、(有)青葉、(株)アドバン、(株)アドルックス、荒井建設(株)、アンテス電気(株)、安藤建設(株)、イーエムティー(株)、池田煖房工業(株)、(株)伊勢丹、富山県射水市、(株)井六園ワールト、岩田地崎建設(株)、(株)HKIアックス、(財)NHKインターナショナル、NPO「江戸城再建を目指す会」、(株)大林組、隠岐の島町(島根県)、(株)奥村組、小田急電鉄(株)、(株)小田急トラベル、鹿島建設(株)、鹿島道路(株)東京支店、大阪国際空港ターミナル(株)、(株)大塚食品、環境テクノス(株)、関西電力(株)、九城企業(株)、(株)九電工東京支店、九州電力(株)、九州旅客鉄道(株)、(株)キャントウ、(株)熊谷組、(株)グリーンキャブ、群馬県、京浜急行電鉄(株)、(株)耕人舎、佐川アドバンス(株)、(株)サマンサタバサジャパンリミテッド、三協立山アルミ(株)、三普旅行社有限公司、四国電力(株)、四国旅客鉄道(株)、清水建設(株)、(株)JAL-DFS、(株)JALUX、(株)JTB、消音技研(株)、新菱冷熱工業(株)、(株)センインターナショナル、常磐興産ピーシー(株)、住友電設(株)、(有)西洋館センター、竹内印刷(株)、(株)銭高組、全日本空輸(株)、パーキングプロ(株)、セントラルリーシングシステム(株)、(株)ダイエーコンサルタンツ、第一交通産業(株)、第一資材(株)、(株)大気社、大興物産(株)東京支店、大成建設(株)、大成サービス(株)、大成設備(株)大成ロテック(株)、大成ユーレック(株)、大鉄工業(株)北陸支店、大日産業(株)、(株)高商、高砂熱学工業(株)、(株)竹中工務店、(株)丹青社、中国電力(株)、中部電力(株)、TCTレーディング(株)、(株)哲建、電研工業(株)、東海旅客鉄道(株)、東急建設(株)、東京急行電鉄(株)、東京国立博物館、(財)東京観光財団、東京電力(株)、東光電気工事(株)、東芝エレベータ(株)、東北電力(株)、トヨーカネツソリューションズ(株)、戸田建設(株)、名古屋鉄道(株)、西日本鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、(株)西原衛生工業所、西松建設(株)、日墨ホテル投資(株)、日本オーチス・エレベータ(株)、(株)日本海コンサルタント、日本空港ビルデング(株)、(株)日本航空インターナショナル、(財)日本交通文化協会、(社)日本添乗サービス協会、(株)日本プラント建設、専門学校日本ホテルズスクール、(株)ニューテック、ネスレ日本(株)、箱根町(神奈川県)、箱根建設(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)日立ビルシステム、(株)日立製作所、(株)ビッグウイング、広島電鉄(株)、福岡空港ビルデング(株)、(株)パロックジャパンリミテッド、(株)フィールドサービス、富士機材(株)、藤長電気(株)、富士通(株)、プラネットワークス(株)、北海道旅客鉄道(株)、北海道電力(株)、北陸電力(株)、北海道空港(株)、(株)ホテル小田急、(株)ホテルメトロポリタン、前田建設工業(株)、(株)ホテルリックス、マイニホールディングス(株)、(株)まるまんファイオーレ、三井住友建設(株)東京建築支店、三菱電機(株)、(株)山武ビルシステムカンパニー、有楽土地(株)、(株)USEN、横浜貨物総合(株)、横浜ビル建材(株)、(株)ランゲージネット、菱重輸送機エンジニアリング(株)、りんかい日産建設(株)

特定非営利活動法人(NPO)

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます

JAPAN NOW
 観光情報協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-13

小田急代々木ビル3F

電話 03(5304)9500

FAX 03(5304)5632

E-mail info@japannow.org

Home page http://www.japannow.org

発行人: 白澤照雄(JN協会事務局長)

編集長: 白澤照雄(JN協会事務局長)

発行部数: 3000部 主な配布先: 会員、中央官庁、

地方自治体、民間企業、マスコミなど

編集後記

私は下手の横好きで、高校時代からテニスを生涯の運動として親しんできた。テニス部のキャプテンを努めたものの、試合に出ると負けが多かった。新聞社で通産省担当のころ帰宅が明け方という状態が続き、健康保持のため中断していたテニスを始めたところ風邪を引かなくなった。テニスの面白さは、ゴルフのようなハンディキャップなしの真剣勝負だからといえる。それに3時間やっても一人2000円ほどで負担が少なく、女性との混合ダブルスも面白い。しかし最近の女性は、私がバックハンドで相手コートベースラインに打ったボールが、ネットの方に逆回転しながら戻ってくる、決め球にも強く、閉口している。

最近、文部科学省が行った「体力・運動能力調査」によると、65歳以上のお年寄りの体力がこの10年間、右肩上がり向上しているとか。例えば、腹筋回数は男性が11・97回から14・05回、女性は7・41回から8・13回、6分間の歩行距離でも男性が588メートルから612メートル、女性は548メートルから572メートルとなり、バランス感覚や柔軟性も好転。運動がお好きなシニアはスポーツジムで体力を鍛えている。私も健康維持のためテニスを続けたいが、練習量の多い中年女性に勝つのは容易でない。(白澤)